

第73回日本食道学会学術集会 への参加をお願いします!



第73回日本食道学会学術集会 会長

藤 也 寸 志

(国立病院機構九州がんセンター・院長)

第73回日本食道学会学術集会が目前に迫ってきました。2019年6月6日(木)・7日(金)に、福岡市の福岡国際会議場で開催させていただきます。多くの先達により築き上げられた歴史と伝統を引き継いで、本学会学術集会の会長を務める機会をお与え戴きましたことを大変光栄に感じております。理事長の松原久裕先生をはじめとした食道学会の皆様にご心より感謝申し上げます。

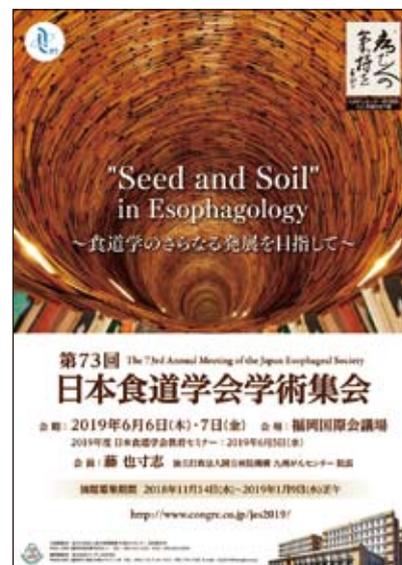
食道疾患の治療成績は急速に向上してきていますが、その一方で、食道疾患に苦しむ患者さんやご家族がまだまだ多くいるのも現実です。その問題を解決するには、医師だけでなく全ての職種の医療者が、広い視野を持ち、常に問題意識を持ちながら診療や研究へ参画することが求められます。そこで、All Japan で食道学、そして日本食道学会を更に発展させるために“土を耕し、次世代のための種を蒔く”ことを目指して、本学術集会のメインテーマを<“Seed and Soil” in Esophagology ~食道学のさらなる発展を目指して~>としました。

ここ数年で、食道診療領域では、食道癌へのロボット支援手術の導入や免疫チェックポイント阻害剤を含む多くの新規治療の開発などの新展開が見られます。しかし、例えば食道癌全症例の5年生存率は未だ40%前後で、治癒しない患者さんに対するケアのあり方の議論は不十分のままです。また食道癌のサバイバーのQOL維持や心のケアなどについての認識も高めなければいけません。さらには、他

の癌に比べて遅れている食道癌のトランスレーショナルリサーチも推進しなくてはなりません。

そのような点を意識してプログラムを作成し演題を募集しました。その結果、広い領域にわたって、おそらく過去最高の880題を登録いただきました。そして、外科医はもとより、内科医、放射線治療医、病理医、さらにメディカルスタッフがいつも参加できるセッション構成を心がけました。また、がんゲノム医療の牽引者である国立がん研究センター理事長の中釜齊先生に特別講演を、終末期の悲嘆に寄り添う緩和ケアを実践され「ミトルヒト」の作者である本願寺派善福寺住職の長倉伯博先生に教育講演をお願いしています。初日の夕方には、日本一に輝く精華女子高校のマーチングバンドの演奏を企画しました。

爽りの多い学術集会にするべく精一杯努力したいと思います。皆様のご指導ご鞭撻をお願い申し上げますとともに、全国から多くのご参加していただき、博多の街を楽しみながらも本学術集会を盛り上げて頂きますよう心からお願い申し上げます。



お知らせ

2019年度 教育セミナー開催のお知らせ

2019年度日本食道学会学術集会教育セミナーを下記の通り開催いたします。

- 【日 時】 2019年6月5日(水) 午後3時~6時
- 【会 場】 福岡国際会議場・第1会場
〒812-0032 福岡市博多区石城町2-1 TEL:092-262-4111(代表)
- 【受講料】 事前申込み 4,000円(テキスト、受講証含む) ※受付期間4月10日より5月15日まで
当日申込み 5,000円(テキスト、受講証含む)
- 【セッション】 1. 病理のトリセツ(国立病院機構大阪医療センター臨床検査診断部・眞能正幸先生)
2. 陽子線治療(筑波大学医学医療系放射線腫瘍学・石川仁先生)
3. 良性疾患及び超音波内視鏡(川崎医科大学総合医療センター検査診断学・眞部紀明先生)
4. 栄養療法(千葉県がんセンター食道・胃腸外科・鍋谷圭宏先生)
5. 内視鏡による咽頭スクリーニング(北里大学医学部消化器内科学・堅田親利先生)
6. ロボット支援食道切除術(佐賀大学一般・消化器外科・能城浩和先生)

学術集会参加者は無料で聴講(無料、テキスト・受講証なし、事前申込み不要)という形で、ご参加いただけます。詳しくは本学会ホームページ(https://www.esophagus.jp/private/information/news_20190225.html)をご参照ください。

各種委員会・部会報告

〔選挙管理委員会〕

2019年評議員選挙結果について

委員長 岡住 慎一(東邦大学佐倉病院 外科)

先般、日本食道学会評議員改選が行われ、選挙評議員と非選挙評議員が選出されましたので報告申し上げます。選挙評議員(定数350名)の要件は、65歳未満、連続5年以上、本学会の正会員で会費を完納した者であり、最近5年間の食道疾患に関連した研究業績(論文発表あるいは学会発表)の点数総計が10点以上とされています。今回の立候補者は436名でありました。学会員最終選挙権者2452名の郵送による投票を経て、開票および集計を2019年3月26日に選挙管理委員会(委員7名、事務局員5名)にて施行し、得票順に350名が選出されました。また、今回より非選挙評議員については、推薦対象として準会員を新たに加えるとともに、雑誌esophagus掲載論文著者を優先的に選挙することとしました。非選挙評議員選挙委員から推薦をいただいております被推薦者名簿と選挙評議員選挙結果をもとに後日、非選挙評議員50名が選出されました。

本年度の選挙評議員立候補者は前回よりも100名近く増加しました。これは学会員の業績の蓄積を反映していると考えられ、学会活動の指標でもあります。非選挙評議員の充実も合わせ、今後さらなる学会の活性化が期待されます。

〔会誌編集委員会〕

会誌編集委員会報告

委員長 小澤 壯治(東海大学医学部 消化器外科)

会員の皆様におかれましては、本学会機関誌Esophagusの発展にご尽力賜り、心よりお礼申し上げます。

Esophagus誌の現状についてご報告いたします。

- 1) インパクトファクター: 2017年は0.991となりましたが、2018年は出版社の予測では1.0以上を大いに期待できる状態です。引き続きインパクトファクターの付与されている雑誌に原稿を投稿の際には、是非とも本誌を引用していただきたく存じます。
- 2) 投稿数: 2018年の年間投稿数は148編であり、これまでに年間投稿数が最多であった2014年の131編を超え、過去最高となりました。特にOriginal articleが122編(93%)となり、Original article中心の会誌になりました。2018年春に本誌がMEDLINE掲載となったことから、PubMedを利用したアクセスが増えているものと考えられます。
- 3) 採択率: 2018年のOriginal articleの採択率は39.0%、全体が39.1%であり、比較的採択されやすい状況です。目標は約30%を目指していますが、目標数字を追い求めるよりも内容で採否を判断する方針に変更はありません。
- 4) 投稿地域: 日本、ヨーロッパ、アジア、中東が上位4地域です。特に中国からの投稿論文数が急速に増加していますが、この傾向はしばらく持続するものと思われます。アジアからの論文採択率は4.5%とかなり低いですが、本誌の認知度が上昇するにつれて質の高い論文が投稿されてくるものと期待されます。引き続き日本からの投稿は大歓迎です。
- 5) Vol.16, No.1に食道癌診療ガイドライン 2017年版の英語版を掲載しましたので、英語論文執筆の際には、インパクトファクター向上に直結しますので積極的に引用をお願いします。

Original articleを中心とした投稿数が増加中であり、本誌が着実に充実してきています。食道学に関わる全ての会員の皆様に引き続き育てていただければ幸いです。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

〔NCD部会〕

NCD部会報告

部会長 藤 也寸志(九州がんセンター 消化管外科)

「2019年度NCD研究課題」について

本年度も、消化器外科学会による「2019年度『NCDデータを利用した消化器外科領域新規研究課題』の公募」が行われ、日本食道学会において5課題の応募がありました。理事会において審査した結果、下記の2課題を採択しました。日本食道学会承認課題として消化器外科学会に提出し、最終承認されました。

- ① 術前血糖コントロール状態が食道癌手術の術後合併症発生に与える影響に関する解析
渡邊 雅之 先生(がん研究会有明病院 消化器外科)
- ② 胸部食道切除後の再建法による短期成績の比較
竹内 裕也 先生(浜松医科大学 外科学第二講座)

「食道癌全国登録のNCDへの移行」について

現在、各学会・研究会で行われている臓器癌登録をNCDへ移行する動きがあります。食道学会では、食道癌全国登録をNCDへ移行し、2019年から前向き登録および後ろ向き登録を開始しました。前向き登録は2019年の症例を、後ろ向き登録は2013年症例を登録していただきます。前向き登録の場合、予後を5年後に追加入力していただくことになります。外科系以外の内科・放射線科などからのNCDへの登録も可能になりますので、NCDへ施設登録をして食道癌登録をして継続して下さい。本年を含めて2018年症例を登録完了する2024年までの6年間は、前向き・後ろ向きの両方を登録していただかないといけません。会員の皆様にはご負担をおかけしますがご協力のほど宜しくお願い申し上げます。また、今後しばらくは、システム内容や登録の締め切り期日など試行錯誤する点があるかと思えます。ホームページ、メールや学術集会を通じて変更点や注意点をアナウンスしていきますので、ご理解いただけますようお願い申し上げます。

〔保険診療検討委員会〕

2020年度診療報酬改訂に向けた準備状況

委員長 渡邊 雅之(がん研有明病院 消化器外科)

2020年度診療報酬改訂に向けて本年3月末に医療技術提案書を外保連に提出しました。日本食道学会としての提案状況についてご報告いたします。食道外科専門医認定施設・準認定施設の施設代表者の先生方におかれましては、各種アンケート調査にご協力いただき、誠にありがとうございました。この場を借りて御礼申し上げます。

〔技術・新規〕

1. 食道切除術(切除のみ、胸部食道) K525に術式追加
良性食道疾患に対する食道切除再建術はK525として認められていますが、臍胸や全身状態不良で食道切除+頸部食道瘻とせざるを得ない症例があります。
2. 食道大動脈瘻手術(切除のみ)
アンケート調査に対して84施設からお返事をいただき、16施設から39例の食道大動脈瘻症例を集積しました。食道切除を施行した症例の予後は施行しなかった症例に比較して有意に良好であり、特に食道切除と大動脈置換の両者を行った症例の予後が最も良好であることがわかりました。この結果はEsophagus誌に投稿しています。
3. 食道悪性腫瘍切断術(消化管再建を伴う)(頸部、腹部の操作によるもの)(ロボット支援)
主学会の調整に伴い、日本食道学会が主学会として申請することになりました。まず縦隔鏡下手術と同点数での保険収載を目指す方針としています。
4. 食道内多チャンネル・インピーダンスpH測定検査
日本消化管学会を主学会として共同提案
5. 高解像度食道運動機能検査(high resolution manometry)
日本消化管学会を主学会として共同提案

〔技術・改正〕

1. スtentグラフト内挿術・胸部大動脈(食道悪性腫瘍に対して)
アンケート調査に対して84施設からお返事をいただき、19施設から41例のTEVAR症例を集積しました。出血および出血切迫に対してTEVARを施行した18例の生存期間中央値は135日、術前予防としてTEVARを施行した20例の生存期間中央値は378日でした。18例に食道切除が施行され、術中出血は認めませんでした。R0切除は12例に施行され、長期生存例も認められることがわかりました。この結果はEsophagus誌に投稿予定です。
2. 脊髄誘発電位測定等加算 食道悪性腫瘍切断術に用いた場合の追加
術中反回神経モニタリングの食道悪性腫瘍手術に対する適応拡大を目指します。
3. 食道悪性腫瘍手術における有茎腸管移植の加算増加
アンケート調査に対して86施設から967例の症例が集積されました。手術時間は胃管再建に比較して平均142分長く、医師4名、看護師3名がかかっていました。自動吻合器1個、自動縫合器6個は現状の加算の範囲内でした。このデータをもとに加算増を申請しました。
4. 食道悪性腫瘍切断術(消化管再建を伴う)(頸部、腹部の操作によるもの)(縦隔鏡下)の増点
アンケート調査に対して20施設から96例が集積されました。手術時間の中央値は411分と外保連試案の8時間より短く、医師数、看護師数とも外保連試案通りでした。現行の評価軸の中では増点を要望する根拠がなく、今回は残念ながら要望取り下げとさせていただきます。
5. FDG-PETの治療効果判定への適応拡大
日本核医学会を主学会として共同提案
その他、自動縫合器・吻合器加算について試案登録数への承認増を外保連から一括申請の予定(食道領域に関しては自動縫合器が良性疾患で4→5個、悪性腫瘍で6→8個)。
今後とも、臨床現場からの要望を保険診療につなげられるように、最大限努力してまいります。あらためて、皆様のご協力で心より感謝申し上げます。

【食道外科専門医認定部会】

食道外科専門医認定試験について

部会長 安田 卓司

(近畿大学医学部 外科学教室上部消化管部門)

今年も食道外科専門医試験の新規申請の時期が近づいてきました。新試験方式となって2回目です。座学である筆記試験の比重を下げ、手術ビデオの追加と異なるテーマの5ブースを全て回って行う口頭試問で実臨床の経験と実力を大きく評価するというスタイルで、より資格としてのstatusは高くなったと思います。食道外科に必要な基礎知識と診断や治療方針の決め方、基本手術手技と術中・術後の合併症への適正な対応力を多角的に審査することで偏りなく公平に実臨床レベルを評価するものです。取得した際には多いに胸を張って頂ける資格ですので是非とも腕試しと思って積極的にチャレンジして下さい。

ここでもう一度新規申請にあたっての注意点を簡単にお知らせします。

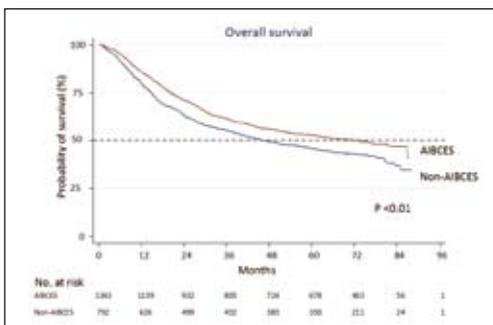
1. 手術ビデオの提出
提出された診療経験の中の胸部食道癌症例から1例を選び、その縦隔郭清を伴う胸部操作の未編集手術ビデオを取めたDVDを提出して頂きます。ただし、患者の同意を得ていることが原則です。縦隔郭清の基本手技、主導性、術野展開の円滑さ、安全な手技と共に一定の郭清レベルを含めて評価します。郭清を省略したビデオや遠景で手技が確認できない、解像度が悪いビデオは評価できませんのでご注意ください。審査は個別評価の後に中央評価委員会を開いて合議のもとに最終判定されます。
2. 手術記録の提出
病院内に保存された公式手術記録を症例ごとにID番号、患者氏名を削除した後、全ページを提出して下さい。「頸部」、「胸部」、「腹部・再建」の領域別の術者名の記載がない場合は術者一覧表を症例ごとに添付して提出して下さい。手術記録の修正・追記は一切認めません。郭清範囲の記載がない場合は評価できません。接合部癌症例は部会にて別途診療経験としての採用の可否を検討いたします。
3. 筆記試験
筆記試験は約35問前後で1時間の予定です。食道外科医として知っておくべき基本事項や最新の知見に関する知識の有無を客観的に評価します。
4. 口頭試問
異なるテーマの5ブースを全て回って口頭試問を受け、実臨床同様に画像診断、治療戦略の立案、手術解剖や術式に関する知識と経験、合併症の対応等を中心に評価します。
本試験は、受験者のみならず、審査する試験官にも集中力と忍耐が求められます。お互い本気度は半端ではなく、その意味では極めて厳格かつ公正な、価値ある資格と思います。是非魅力を感じて頂ければと思います。皆さんの挑戦をお待ちしています。

【食道外科専門医認定施設認定部会】

部会報告

部会長 本山 悟(秋田大学医学部附属病院 食道外科)

- ・ 2019年1月現在、食道外科専門医認定施設は120施設、準認定施設は28施設、合わせて148施設、46都道府県で認定されています。
- ・ 食道外科専門医認定施設および準認定施設で手術を受けた食道癌患者の術後5年全生存率が非認定施設と比べて有意に良好であることが院内がん登録(2008年症例)を用いた解析で判明しました。(Esophagus 16, 114-121, 2019)
- ・ 本学会が行ってきた食道癌全国登録がNCD食道癌全国登録へ移行することに伴い、食道外科専門医認定施設認定要件が多少変更になります。NCD登録が要件の一つになります。移行期間を十分に確保して対応してまいります。H・P等の「お知らせ」にご留意願います。



【ガイドライン評価委員会】

食道癌診療ガイドライン第4版の評価結果

委員長 丹黒 章

(徳島大学大学院医歯薬学研究部 胸部・内分泌・腫瘍外科分野)

食道癌診療ガイドライン第4版が2018年6月に刊行されました。第4版は、厚生労働省委託事業:EBM普及事業団(Minds)によるAppraisal of Guidelines for Research & Evaluation (AGREE II)を用いた第3版への評価結果を受け、Mindsから作成作業への参加を依頼し、エビデンスの考えやシステムティックレビューに関して指導を受けたチームにより手引書に沿って作成されました。エビデンスが少ない分野に関しては全国アンケート調査を施行した後に論文化を行い、メタアナリシスを実施して推奨文が作成されました。推奨レベルは、エビデンスの確かさ、易と害、患者の希望、コスト評価に基づいて、投票による合意形成を経て決定されています。2018年1月末に発表されたMindによる評価でもおおむね良好な評価でしたが、適用可能性に関しては若干低い評価でした。文献検索方法に関して透明性を高めるために詳細に記載すること、外部評価結果について明記すること、患者の価値観や希望に関する記述の元となる文献や調査についても提示することなどが指摘されました。

日本食道学会ガイドライン評価委員会の評価

1. 各CQ別評価
各CQに対する評価者を指名し、AGREE II に則って7段階の評価を依頼しました。評価の低かったCQは食道表在癌に対しての鑑別診断、内視鏡治療後の狭窄予防、進行胸部食道癌に術前治療+手術を行った場合の術後補助療法、頭合併切除適応食道癌に対する術前あるいは根治的放射線療法、切除可能な頸部食道癌に対する手術における頸部および上縦隔のリンパ節郭清、根治術における頸部郭清、食道胃接合部癌に対する胃全摘の必要性、食道癌周術期管理における術後合併症予防に関するものでした。
2. 総合評価
評価委員全員が1-7点で評価しました。総合評価は全員6/7点でした。評価が低かった評価項目は「適応可能性」に関する以下の18. 適応時の促進要因と阻害要因の記載
19. 推奨適応の助言・ツール記載
20. 推奨の適応に対する、潜在的な資源の影響が考慮されている
21. ガイドラインにモニタリングや監査のための基準が示されている
3. アンケート調査
学会員にアンケート調査を依頼し、アンケート結果を集計しました(n=100)。回答者のうち74%が利用していると答え、診療方針が決まやすくなった(46%)、患者に説明しやすくなった(40%)などおおむね高い評価でした。評価結果をホームページに掲載しておりますので、ご参照ください。まもなく次期ガイドライン検討委員会への提言を行う予定です。

【研究推進委員会】

2019年度研究課題について

委員長 藤 也寸志(九州がんセンター 消化管外科)

研究推進委員会は2015年度に新設され、2018年度までの4年間に9課題が食道学会において承認されて全国規模の研究が行われています(食道学会ホームページの研究活動をご参照下さい)。昨年(第72回学術集会(宇都宮))で3課題の成果が発表されました。さらに、本年6月の第73回学術集会(福岡)の『Seed and Soil』セッション5:研究推進の「土壌作り」に向けた食道学会の役割において、下記の2課題の成果が発表されます。

- 1) 食道癌における血清p53抗体の臨床病理学的意義に関する多施設後ろ向き研究 島田 英昭 先生(東邦大学・外科学講座一般消化器外科分野)
- 2) 術後再発食道扁平上皮癌の転移巣に対する外科的切除の意義に関する全国実態調査 佐伯 浩司 先生(群馬大学大学院・病態総合外科)

本年度も<2019年度の研究課題の公募>を行いました。本年は6課題もの応募がありました。計画の科学性、実現可能性、学会主導として行う妥当性などを研究推進委員会で審査をした結果、下記の2課題を選出し理事会でも承認されました。応募課題は全て優れたものでしたが、調査協力の施設の負担を考慮して採用は2課題としました。

- 1) 胸部食道癌手術症例を対象とした胸管合併切除の必要性に関する後ろ向き観察研究 押切 太郎 先生(神戸大学・食道胃腸外科)
- 2) 食道癌手術後の異時性胃癌(胃管癌)に対する全国実態調査 藤 也寸志 先生(九州がんセンター・消化管外科)

*課題1)は、同一課題で応募があった国立がん研究センター中央病院食道外科との共同研究となります。

本活動は今年で5年目になりますが、審査のあり方も徐々に厳しく適切なものになってきています。「食道学会が主導して世界に情報を発信する」という目標の達成のために、委員会としてよりよい研究のために建設的な意見が出されているものと考えます。食道学会において活発なNationwideな研究ができるように、会員の皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

会告：第75回日本食道学会学術集会

第75回日本食道学会学術集会の開催について



日本医科大学 消化器内科学

会長 岩切 勝彦

このたび第75回日本食道学会学術集会の会長を拝命いたしました日本医科大学消化器内科学の岩切勝彦です。2021年6月2日(水)から4日(金)までの3日間(6月2日は教育セミナーを開催予定)、ヒルトン東京お台場にて開催させていただきます。

私は食道機能性疾患の病態評価を研究テーマとして30年間一貫しこの領域の研究を継続してまいりました。私にとって最も重要な学会である日本食道学会学術集会の会長を務める機会をいただきましたことを大変光栄に存じます。

食道悪性、良性疾患をバランスよく論議できる学術集会を目指したいと考えております。学会での熱い議論のあとには東京湾のウォーターフロントエリアに位置するヒルトン東京お台場からの、東京の街並みやレインボーブリッジ、東京タワーの素晴らしい景色をお楽しみいただければと思います。

日本医科大学消化器内科学教室員一同全力を挙げて準備に取り組んでまいります。皆様のご指導ご鞭撻の程、何卒、よろしくお願い申し上げます。

準会員募集のお知らせ

チーム医療を担う医療専門職の方々へ

日本食道学会 準会員募集

食道疾患の臨床では、看護師、薬剤師、リハビリテーション、管理栄養士、臨床検査技師、放射線技師、臨床工学技士、MSWをはじめとした医療専門職のみなさんが主体のチーム医療が不可欠です。

食道に関心を持つ多くの医療専門職の方々へ準会員になって頂き、質の高い研究成果を発表していただくことを期待しています。

入会金 **無料** 年会費 **3,000円**

日本食道学会準会員入会手続き
<http://www.esophagus.jp/associate.html>



準会員入会は
食道学会ホームページより

2019年以降の学術集会のご案内

◆ 第73回日本食道学会学術集会

会長：藤 也寸志(九州がんセンター 消化管外科)

会期：2019年6月6日(木)～7日(金)

会場：福岡国際会議場

◆ 第74回日本食道学会学術集会

会長：丹黒 章(徳島大学大学院医歯薬学研究部
胸部・内分泌・腫瘍外科分野)

会期：2020年6月11日(木)～12日(金)

会場：ホテルクレメント徳島、あわぎんホール

◆ 第75回日本食道学会学術集会

会長：岩切 勝彦(日本医科大学 消化器内科学)

会期：2021年6月3日(木)～6月4日(金)

会場：ヒルトン東京お台場

*編集後記

2018年11月17日新方式による専門医認定試験が国立がん研究センターにおいて行われました。専門医申請者は33名、そのうち書類審査ならびに新たに始まったビデオ審査合格者が25名、最終筆記ならびに面接試験合格者が22名ということで合格率は66.7%となりました。初めての試みでもあり、安田卓司先生をはじめ本専門医試験に関わった先生方のご努力に心より敬意を表します。また、新方式での試験実施ということで、受験者の中にも戸惑われた方もおられたと思いますが、本ニュースレターの中で安田先生が注意点を記載されておられますので、HP記載事項とともに参考にいただければと思います。

また、これまで学会が行ってききました、食道癌全国登録がNCD食道癌全国登録に移行することになり、食道外科専門施設認定(新規、更新)の要件も変更になります。HPの医療関係者向けお知らせなどに詳細が記載されていますのでご参照ください。

第73回日本食道学会総会は藤也寸志会長のもと、“Soil and Seed” in Esophagology ～食道学のさらなる発展を目指して～をテーマとして福岡国際会議場(福岡市)において開催されます。このニュースレターにも学会開催に向けての準備状況、演題登録数が880題にも上ったことなどが詳細に記載されておりますので、会員の皆様におかれましてはぜひ一読いただければと思います。元号が令和となって初めての学術集会です。会員の皆様と6月6日、7日博多でお会いできることを楽しみにしております。

広報委員会 委員長 大平雅一
委員 有馬美和子、出江洋介、熊谷洋一
竹内裕也、奈良智之、白川靖博
山崎 誠、山辻知樹、村上健太郎

特定非営利活動法人 日本食道学会 事務局

〒130-0012

東京都墨田区太平2-3-13 廣瀬ビルディング4階

電話 03-6456-1339 FAX 03-6658-4233

e-mail: office@esophagus.jp

ホームページ <http://www.esophagus.jp/>